

課 題

平成3、5年度の学力水準調査、平成9、11、13、15年度の学習状況調査、平成16年教育課程実施状況調査の分析から得られた課題と、最近の本県の中学校社会科の課題と考えられるものの中で、主なものを示します。

1 基本的な知識や技能が身に付いていない

図1の地理的分野で正答率が低い問題の中には、地形図の縮尺、地図の子午線や時差、雨温図、日本の気候区分に関する問題、都道府県名や県庁所在地に関する内容など、基本的な問題として位置付けられるようなものが多数含まれています。

2 知識が断片的で関連していない

図2から分かるように、歴史的分野について、本県の生徒は難しい問題ほど全国の生徒よりも通過率がより低くなります。全国よりも通過率の高い問題はすべて絵やカードなどの文字数の少ない情報を見て、即座に答えを導き出すものでした。つまり、本県の生徒の知識は断片的であり、知識と知識がつながっておらず、構造化していないため、考えたり表現する際に、知識が活用できる状態になっていないと考えられます。このことは図1で、各分野とも、出題数が少ないにもかかわらず、論述式の問題で通過率が低くなっていることから伺えます。

3 歴史的分野は全国平均を下回り、中でも歴史の流れを問う問題の通過率が低い

歴史的分野については、全国の通過率の平均を下回りました。中でも、「歴史の流れ」を問う問題は最も低い結果となりました。(平成16年度教育課程実施状況調査)

4 地理的分野は、大半の生徒に「分からない」「嫌い」と意識されている

地理的分野は、すべての単元で、「嫌い」が「好き」と回答した生徒の割合を上回りました。また、大部分の単元で、「分からない」が「分かった」と回答した生徒の割合を上回りました。(平成16年度教育課程実施状況調査)

5 課題解決的な学習や調査等を取り入れた学習は、あまり行われていない

課題解決的な学習を取り入れた授業については約5割の教師が、観察や調査・見学等を取り入れた授業については9割を超える教師が、「行っていない方だ」「どちらかといえば行っていない方だ」と回答しています。(平成16年度教育課程実施状況調査)

6 歴史的分野学習の進度が遅れがちである

もともと歴史的分野の進度は遅れがちでしたが、現行の学習指導要領で時数が削減され、この傾向は顕著なものになっているように思われます。

7 授業における話し合いができなくなっている

社会生活をするために最も必要な能力・態度の一つである「話し合い」が、近年、生徒集団で成立しない傾向にあるように思われます。

本稿では、課題1・2・6・7を直接的に、課題3と5は両者を併せて扱いました。課題4については、平成17年度改善プランVOL.1及びVOL.3で「都道府県の調査」として、また、課題3と5については、同プランVOL.2で「課題解決的な一授業一学習課題の授業」としても扱っていますのでご参照ください。